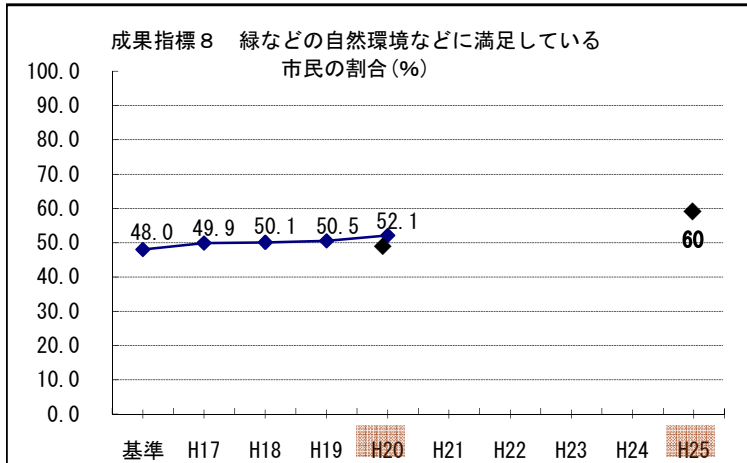


柱	2 生活環境
分野	E 自然
ビジョン	次世代につなげる生命（いのち）ある自然環境の保全



主な事業

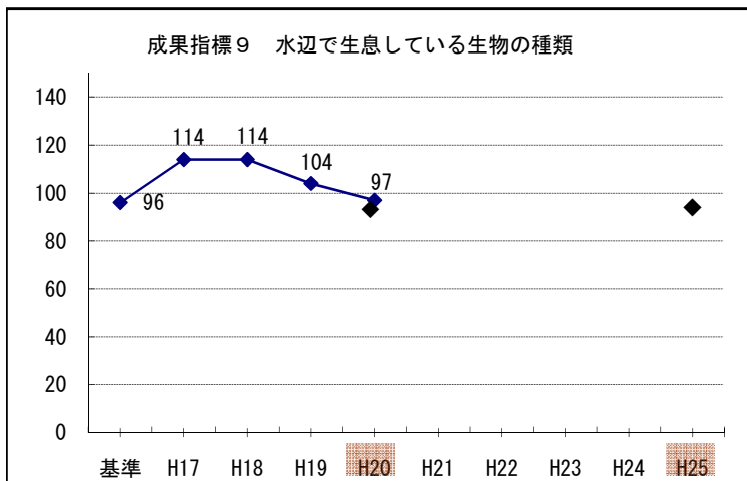
21世紀の森づくり事業
 保全地区・保存樹木の指定
 松くい虫防除事業
 緑の基本計画等策定事業

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析

緑などの自然環境に満足している市民の割合は、20年度のめざそう値50%を達成しており順調である。年齢別では65歳以上以外でめざそう値を達成している。職業別では無職以外でめざそう値を達成している。学区別では横須賀、三ツ池以外でめざそう値を超えている。男女別では男性より女性の方が5%程度高い数値になっている。65歳以上及び無職の方で満足割合が低いのは、理想を高く持っているものと思われる。また、女性の割合が高いのは自然に親しむ機会が多いものと思われる。



主な事業

上野新川ふるさとの水辺再生事業
 大田川等生物調査委託
 渡内川・中川クリーン作戦

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析

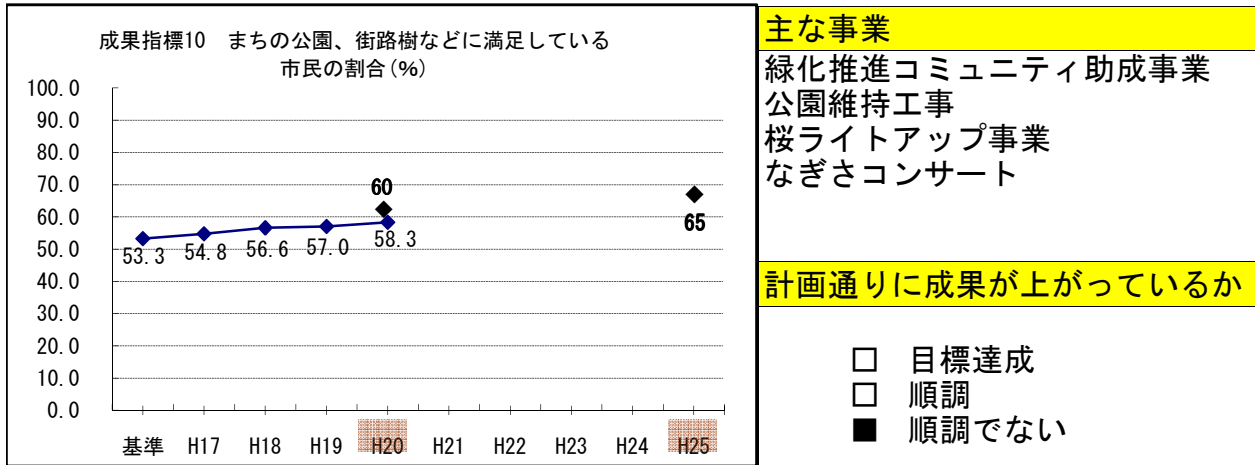
右肩下がりの数値となっているが、目標は達成している。調査地点周辺では目立った環境の変化は無いため誤差の範囲と考えられるが、今後も注意深く推移を見守る必要がある。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

緑の基本計画に基づき加木屋緑地の整備・保全を進めるほか、保全・保存樹木未登録者の登録推奨、緑の保全のための調査研究を実施することにより成果向上の余地はある。また、水辺など様々な分野を対象とした取り組みを進めることで、豊かな自然を回復し、守っていく必要がある。

柱	2 生活環境
分野	F 公園・緑地・景観
ビジョン	花と緑あふれる心安らぐまちづくり



成果指標の分析

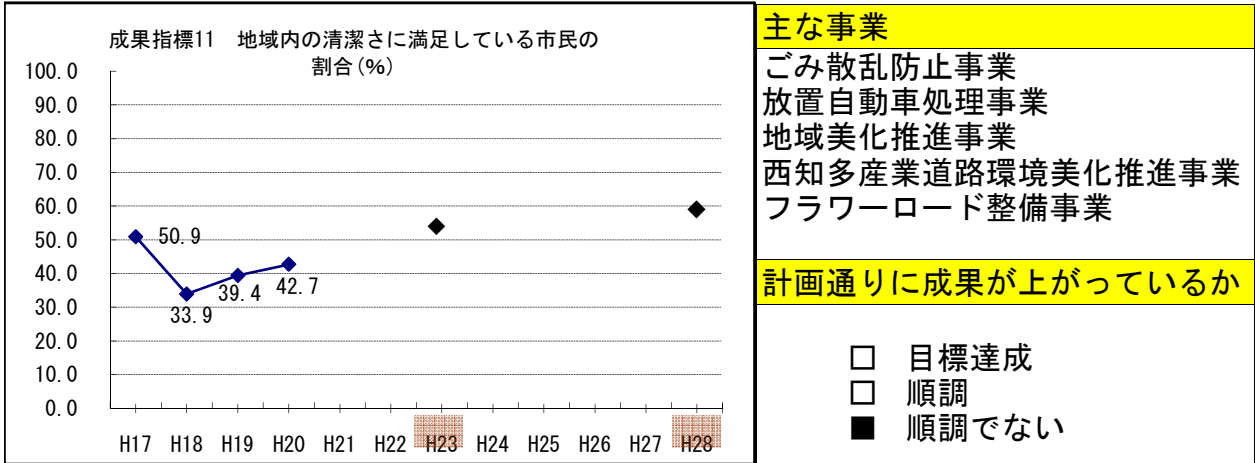
満足度は、僅かではあるが年々増加傾向にあり順調に推移しており、めざそう値に近づいている状況である。年齢別では16～19歳と30～39歳でめざそう値を上回っているほかは20～29歳が極端に低く、あとの年代はめざそう値に迫っている。職業別では、パート・アルバイト、学生、主婦がめざそう値を上回っている。学区別では明倫、富木島、船島、大田、加木屋南でめざそう値を上回っている。男女別では男性より女性の方が6%程度高い数値になっている。これは時間に余裕のある方が公園等を利用して満足度を高めているものと思われる。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

引き続き、公園や環境保全林の整備を進めるとともに、宅地開発業者等に緑地の保全・確保に努めてもらう。また、公園整備においては、地域住民の意見を反映したワークショップ方式での公園づくを進めていくことにより成果向上の余地はあると考えている。

柱	2 生活環境
分野	G 環境美化
ビジョン	道路も公園も自分の庭 めざそうポイ捨てゼロのまち



成果指標の分析

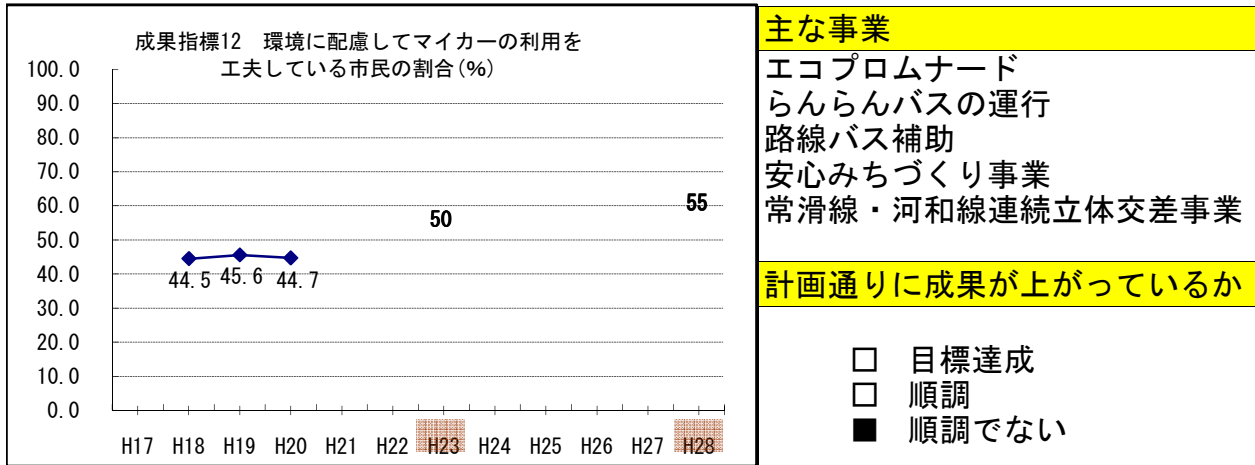
H17年度とH18年度はアンケートの取り方が違うため大きな差が生じたと考えられる（H17は環境に関するアンケート内で、H18以降はまちづくりアンケート内で実施）。H17年度調査結果を基に設定した目標値までの差は依然大きいものの、順調に右肩上がりとなっている。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

広報紙、パトロール等による環境美化意識向上のための啓発活動を行う。また、コミュニティ、町内会、西知多産業道路協議会等による環境美化活動、市による道路清掃を継続して行う。
個人地への不法投棄に対する苦情が寄せられる事も多く、土地所有者への指導も強化し、ごみを捨てられにくい環境づくりを目指す。

柱	2 生活環境
分野	H 交通
ビジョン	環境に配慮した安心便利な交通システムの整備



成果指標の分析
 ガソリン高の影響により向上が予想されたが、数値は前年度より若干低下した。前年度と比較すると全ての取り組みで低下しているが、アイドリングストップの△12%、徒歩や自転車の使用の△11.8%が特に目立って落ち込んでいる

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
 公共交通機関の利便性の向上と併せ、公共交通機関とその他の移動手段の連携などにより「自動車に頼らなくても移動しやすい」まちへと変化していく必要がある。また、短期的な対策として自転車利用の促進、エコドライブの普及などに努める。